



# こころはひとつ ともに未来へ



試合の休憩時間に、おしるこの差し入れ



富士見市のジュニアバレーボールチーム4チームから、寄せ書きの贈呈



矢本バレーボールスポーツ少年団  
キャプテン：阿部詩奈さん(左)  
副キャプテン：坂本美夢さん(右)  
練習は週3回、月・水・土曜にしています。富士見市のチームはどのチームも強かったです。普段対戦したことのないチームといっぱい試合ができて、いい経験になり、とても楽しかったです。  
今回、こうして交流できたことは、一生忘れません。

震災の際は、津波で練習していた体育館も被害を受け、バレーができた状況ではなく、一時期はやめようと思いましたが。しかし、全国の皆さんからのご支援と子どもたちのバレーに対する姿勢とひたむきさに心を動かされ、今までなんとか頑張っていました。



矢本バレーボールスポーツ少年団監督 佐々木秀行さん

今日は、他県のチームと交流をする機会が、なかなかありませんし、子どもたちもとても楽しみにしていました。みんな楽しく試合をしていましたので、よかったです。このような機会を設けていただいているので、ありがとうございます。

津波で家が流された子どもなどもあり、家庭環境にはまだまだ大変な方もいますが、保護者が非常に頑張ってくれて、ありがたかったです。子どもたちには、「バレーができるのが当たり前、道具があるのが当たり前ではないよ。こうしてスポーツできることに感謝していこう、親に感謝していこう」とよく話しています。

## 東松島市の児童とジュニアバレーボール交流

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県東松島市の矢本バレーボールスポーツ少年団の小学生や保護者など27人を1月25日に招待し、東中学校体育館でバレーボールの交流試合を行いました。富士見市からは、ジュニアバレーボールチーム4チームが参加し、スポーツを通じて子どもたちの交流が図られました。  
試合前には、心と体を和らげるミニゲームなどを行い、最初は緊張気味だった子どもたちからも、たくさんの笑顔が弾けました。試合の休憩時には富士見市ジュニアバレーボール連盟の皆さんから、おしるこの差し入れがあり、試合終了時には富士見市の子どもたちから寄せ書きの贈呈や両市の監督と子どもからのスピーチがありました。夕食は両市の子どもたちが一緒に食生活改善推進員の皆さんの手作りカレーをいただき、人形劇「あゆ」による人形劇を楽しみました。  
富士見市では震災後、市民ボランティアの方や市職員などが東松島市を訪問し、がれきの撤去作業や被災地の子どもたちに笑顔を届ける活動など、計17回にわたり東松島市の復興のための支援活動を行ってきました。平成24年5月14日には、東松島市と災害時相互支援協定を結んでいます。  
富士見市では、東松島市と心と心の交流を通して、被災地や被災者を励まし、一日も早い復興を願っています。